

協議事項 1

韓国江原道教育庁との教育交流について

平成22年8月19日

教 育 総 務 課

平成20年7月以来、鳥取県教育委員会と韓国江原道教育庁との教育交流事業は中断していましたが、本年7月に就任された^{ミンピョンヒ}関内薫江原道教育監より書簡（別紙）が届き、交流再開に向けた意見交換会開催についての打診がありました。

今後、実務者レベルで同道教育庁と調整を行っていく予定です。

《参考：平成22年度に当初予算措置している韓国江原道教育庁との教育交流事業》

事業名（担当課）	内 容
江原道教育庁との教育交流事業 （教育総務課）	相互訪問し、鳥取県・江原道教育交流事業を実施
韓国江原道との教員交流事業 （小中学校課）	教職員同士が相互交流し、教育問題等の情報交換を実施
韓国江原道との児童生徒交流事業 （小中学校課）	児童生徒が相互交流し、相互理解と友好を深め、国際感覚を涵養
日韓家庭・地域教育交流事業 （家庭・地域教育課）	保護者等が相互交流し、家庭や地域が抱える根幹的な諸課題を協議
鳥取県・江原道生涯スポーツ交流事業 （スポーツ振興課）	県民スポーツ・レクリエーション祭に江原道の選手団を受入れ

鳥取県教育委員会

教育長 横濱 純一 様

民選初代江原道教育監の関丙熹でございます。まず、当選の際、お祝い文書を送ってくださいました横濱教育長様に深く感謝申し上げます。

江原道教育庁は、「みんなのための教育」を江原教育の未来像として設定し、「幸せな学校、共にする江原教育」を果たしていきたいと思っております。学校では学生に対し「競争」よりは「協力」の精神を学ぶようにし、お互いが助け合い、共存する共同体の一員になるための教育をしなければならないということが私の教育哲学でございます。

北東アジアの国際関係においても日本と韓国は消耗的な競争や葛藤の状態から脱し、両国民の共同の幸せな未来を目指して共に進めて行かなければならないと思っております。

鳥取県教育委員会と江原道教育庁の教育交流は、1995年、姉妹結縁協定を結んでから活発に進んできたものの、大韓民国の領土である独島(日本名：竹島)に対する日本政府の領有権主張により、2005年と2008年、二回も中断されました。

私は江原道の教育監として、両県・道の教育交流が再開され、両国の学生や教育関係者が相互尊重と共存の土台をしっかりと固めていくことを願っております。しかしながら、今後、鳥取県の地方政府及び議会におかれては両国間の領土問題に関与しないという前提があつてこそ、中断のない真の友好教育交流が可能であると存じます。

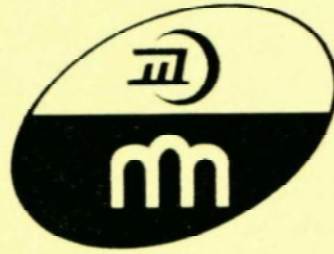
両県・道の教育発展や協力のため、横濱教育長様と共に真率に意見交換できる機会が近々設けられることを望んでおります。

教育長様のご健勝と鳥取県教育委員会の益々のご発展を祈願致します。

2010年8月5日

江原道教育庁

教育監 関丙熹



일본국 돗토리현교육위원회 요코하마 준이치(横濱純一) 교육장님 귀하

민선초대 강원도교육감 민병희입니다. 당선축하 서신을 보내 주신 교육장님께 우선 감사 말씀 드립니다.

강원도교육청은 강원교육의 미래상을 “모두를 위한 교육”으로 설정하고 “행복한 학교, 함께하는 강원교육”을 이루어 가고자 합니다. 학교에서는 학생들에게 “경쟁”보다는 “협력”의 정신을 배우도록 하여, 서로 돕고 상생하는 공동체의 일원이 되도록 교육해야 한다는 것이 저의 교육철학입니다.

동북아시아 국제관계에 있어서도 한국과 일본은 소모적인 경쟁과 갈등 상태에서 벗어나, 양국민 공동의 행복한 미래를 향해 함께 나아가야 한다고 생각합니다.

강원도교육청과 돗토리현교육위원회의 교육교류는 1995년 자매결연 협정을 시작으로 하여 활발히 진행되어 왔으나, 대한민국의 영토 독도에 대한 일본정부의 영유권 주장으로 인해 2005년과 2008년 두 차례나 중단되었습니다.

저는 강원도교육감으로서 양도·현의 교육교류가 재개되어 양측 학생들과 교육관계자들이 상호 존중과 상생의 토대를 굳건히 다져 나가기를 바랍니다. 하지만 향후 돗토리현 지방정부 및 의회에서만큼은 양국간 영토문제에 관여하지 않는다는 전제가 있어야만 중단 없는 진정한 우호 교육교류가 가능할 것입니다.

양도·현의 교육발전과 협력을 위해 요코하마 교육장님과 함께 진솔하게 의견을 교환할 수 있는 기회가 조만간 마련되기를 바랍니다. 교육장님의 건승과 돗토리현교육위원회의 무궁한 발전을 기원합니다.

2010년 8월 5일

민 병 희
강원도교육감